



家族とともに祝福されるヨシさん

長寿を家族や施設職員で祝福 7月24日

宮守町の齊藤ヨシさん100歳

ヨシさんの100歳を祝う会が、特別養護老人ホームみやもり荘で開かれ、家族や職員が祝福しました。大正11年に東和町に生まれ、徹さん(故人)と結婚。農業が好きで、育てた野菜を収穫しては近所や知り合いに配る優しい人柄で、周囲から愛され過ぎてきました。4男3女を育て上げたヨシさんは現在、息子夫婦が持ってくるおやつや家族との面会を楽しみに同所で穏やかに過ごしています。



こどもスタッフが1年の歩みを堂々と発表したセレモニー

「こども本の森 遠野」1周年セレモニー 7月24日

本の森開館1周年を祝う

1周年セレモニーが本の森いちの蔵で開かれました。市民ら約40人が参加。市内小学4～6年の同館こどもスタッフ7人が1年の歩みを紹介しました。本の森を整備した世界的建築家・安藤忠雄さんからは、「この場所から一人でも多く力強い子どもが育ち、日本を支えてくれることを期待しています」とメッセージが寄せられました。開館から1年の7月25日時点で、来館者は21,871人に上っています。



馬と呼吸を合わせ矢を放つ出場者

全国やぶさめ競技第15回遠野大会 7月24日

人馬一体の妙技で魅せる

同大会は柏木平優遊広場で開かれ、県内外から29個人4団体が出場しました。新型コロナウイルス感染防止のため無観客で開催。選手たちは全射の中を目指し、人馬一体となって矢を放ちました。プロ級の部に出場した小館秀樹さん(二戸市)は、「馬場や馬のその日の状況によってバランスをとることが難しいが、スピードに乗って矢が当たると楽しい。また来年も参加したい」と声を弾ませました。



3者の連携で市内の脱炭素社会の実現を目指す

13 エス・ディー・シーズ
教えて! SDGs ゴール13
気候変動に具体的な対策を

ゴール13は、気候変動から地球を守るために行動することが目標。市は7月14日、脱炭素社会を実現させるため磐岩手銀行と磐ゼロボードの3者で脱炭素社会実現に向けた基本合意書を締結しました。今後は、地球温暖化につながるGHG(温室効果ガス)排出量を算出・可視化できるシステムを導入し、GHG削減の計画を立てます。2050年までに市が排出するGHGをゼロにすることを目指しています。

7月2・3日 鉄道フェスタ2022in遠野

鉄道ファンの心くすぐる

同フェスタはSL銀河の運行に合わせ、あすもあ遠野で開催されました。鉄道プラレールの運転展示や駅弁・鉄道グッズ販売などを実施。市内外から約2,000人が訪れ、精巧に再現されたジオラマの世界を楽しみました。家族5人でプラレールを見た菅田湊斗くん(5歳、宮古市)は、「いつも見ている三陸鉄道が1番好き。たくさん電車が走っていておもしろかった」と目を輝かせました。



鉄道のプラレールに目を輝かせる来場者

7月18日 「第104回全国高校野球選手権岩手大会」二回戦

夏の大会初・同郷対決は大熱戦

岩手大会2回戦が花巻球場で開かれ、遠野高と遠野緑峰高野球部が熱戦を繰り広げました。試合は攻守で白熱。4対3で迎えた8回に遠野が1点を加えリードを広げるも、9回裏に緑峰が連打で猛追。接戦の末、遠野が5対3で同郷対決を制し、14年ぶりベスト16に進出しました。観戦した村上康平さん(松崎町)は、「両校の意地とプライドがぶつかり合ういい試合だった」と声を弾ませました。



9回裏、緑峰が1打同点の場面。最後の最後まで白熱した同郷対決

7月17日 デイサービスセンターあったかいごひといちでお祝い

東館町の菊池サキさん100歳

サキさんの100歳を祝う会が13日、あったかいごひといちで開かれました。大正11年に遠野町で生まれ、尋常小卒業後は兵庫県の海軍将校宅に奉公。帰省後は上閉伊郡農協に勤務しました。23歳で幸一さん(故人)と結婚。和服の裁縫に勤しみながら、2人の子を育てあげました。サキさんは、「皆さんにお世話になり迎えられた。ますます元気に、みんなで遠野を良くしていきたい」と笑顔で語りました。



長寿のお祝いを受けたサキさん(前列中央)

7月20日 市役所本庁舎で協定締結式

県葬祭業協同組合と災害時連携

市は、県葬祭業協同組合(青柳均理事長)と「災害時における棺及び葬祭用品の供給等並びに遺体の搬送等の協力に関する協定」を結びました。協定は、災害時に同協同組合が市の要請に応じ、葬祭用品の供給・遺体安置施設の提供・遺体搬送——などを展開します。青柳理事長は、「遠野は後方支援の最重要ポイント。全国と県内37社のネットワークを生かし、力になりたい」とあいさつしました。



協定を交わした多田市長と青柳理事長